

まちひとしごと

Vol. 42

アートギャラリー e-kar-kar

きたぐち
北口 さつき さん



新たな自分をこの場所から

二 セコグラン・ヒラフスキー 場近く、レンタルコートージ

などが集まるエリアの一角で、コ
ンドミニウム兼アートギャラリー
『e-kar-kar (エ・カラ・カラ)』を
運営する北口さつきさん。彼女は
倶知安町の小川原脩記念美術館を
はじめ道内各地での個展の開催
や、展覧会入賞などの経歴を持つ
日本画家だ。

北口さんは、かつて炭鉱都市と
して栄えた北海道三笠市で生ま
れ、小学校・中学校・高校を岩見
沢市で過ごした。

幼少の頃から絵が得意だった彼
女は、自分の得意なこと、楽しい

と思えることを続けたいと、高校
卒業後に北海道教育大学へ入学し
特設美術工芸科で学びを深めた。

「在学中に教員免許を取得して
いたこともあり、卒業後は創作活
動を続けつつ、美術教諭として27
年間道内の高校に勤務しました。
美術部での活動などで私と同じよ
うに絵を描くことが好きな学生た
ちと時間を共有できたことは貴重
な経験でした」

その後、2018年に退職。同
年に、幼いころから毎年のように
スキーを楽しむために訪れるな
ど、なじみのあった倶知安町へ
移住しアートギャラリー『e-kar-
kar』をオープンした。

「教員として岩内町に赴任して
いた4年間で周辺の地域の芸術家
や学芸員の方々とのご縁ができた
こともあり、美しい景色や厳しい
自然の中で自らの創作を見つめ直
したいと、倶知安町への移住を決
めました」

ギャラリーのオープンから1年
後、北口さんは昨年、以前から
親交のあった町内の芸術家とと
もに、羊蹄山を中心とした地域
で活動をする芸術家とそのギャ
ラリーなどを紹介した冊子『ART
ZINE around the Yotei (アートジ

ン アラウンド・ザ・ヨウテイ)』
を企画し発行した。

「この地域には羊蹄山や洞爺湖
など、私たち創作をする人間に
とつても恵まれた自然環境があり
ます。そこに暮らして創ることを
続けている芸術家が多くいること
を、地域の皆さんにも知ってもら
いたいとの思いから、企画しまし
た。私自身も、ギャラリーの存在
を知ってもらうことで、少しずつ
この地域になじんでいければと考
えています」

新たな自分を表現する場所とし
てこの町を選んだ北口さんは、こ
こに暮らすから見えるもの、この
場所から生まれるものを、地域の
方々にも見て感じてほしい。と話
していた。

アートギャラリー『e-kar-kar』、
『エ・カラ・カラ』とは『つくる』
を意味するアイヌ民族の言葉だと
いう。その名の通りこの場所
では、北口さんの生み出す作
品を通じて、感動や人との出
会いがつけられる。

※まちひとしごとは不定期連載です